

中須金山踊



金山踊は別名「錫杖踊（しゃくじょうおどり）」とも呼ぶが、これは山伏（やまぶし）の携えた錫杖の模型を持って踊るためである。

この踊は右手に錫杖、左手に山刀（やまかたな）を持つが、両者共にその先端と中央に色紙のシデをつけてある。このシデは、太鼓踊で神の依代となる申請は呪気（のろき）をあらわしている。

踊では楽器を使用しない棒踊りと同様で、浴衣兵児帯の平常着に白鉢巻、白襷姿、錫杖と山刀を持ち、跳躍しながら踊る活気溢れる踊りである。

棒踊りや太鼓踊りと同様に牛馬の健全成長と豊作祈願・地域の住民の守護神としての踊りである。

昭和39年10月16日に鹿児島市の山形屋で開催された県民族芸能大会に出演した。

長年途絶えていたが平成21年に復活し、地域の諏訪神社奉納や地区文化祭、市主催の国分寺秋の夕べや芸能祭に出演し、声援を受けているところである。

【奉納・披露】

日程：毎年8月第4日曜日

場所：諏訪神社（入来町副田）